

令和6年度 島根中央高等学校 学校評価報告書

【4段階評価】 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：全く不十分

【評価の数値（％）＝総数における肯定的意見（４・３）の割合 ＊（０）わからないは除く ４：そう思う ３：まあそう思う ２：あまりそう思わない １：そう思わない ０：わからない】

目指す生徒像	学校評価項目	保護者 評価	生徒評 価	自己 評価	概要と今後の改善策	学校関係者評価	
「自立」 自分で調べ、考え、判断して行動する	自分で調べたり、考えたり、判断して行動することができますか。	89	93	B	・家庭学習も含め、スタディサブリの活用など、学習意欲の向上や主体的に取り組む姿勢につながる取り組みを検討する。 ・図書関係について、本年度は図書委員活動の活性化による図書利用の推進に注力した。来年度は教職員への働きかけを積極的に行い、図書館利用を増やすことによって自主的に調べる姿勢を育てたい。 ・ほとんどの寮生が、寮生活を通して規則を守り、身の回りのことをできるようになったと回答している。新年度当初以外にも寮生心得を周知する機会を増やし、より規律ある寮を目指す。	A	・インターハイや国スポに向けて島根中央高校カヌー部を筆頭に注目が上がっていく。ここ5年は追い風になり認知度を上げるチャンス。いかにリリースされるかがカギ。リリースの仕方によりマスコミが知らなかったことが大きなPRのカギとなって接点となる。マスコミが広めることによって今まで知らなかった人が知る好循環が生まれる。
	あなたは、授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行うことができましたか。		84				
	寮生活を通して、規則を守り、身の回りのことを自分でできるようになりましたか。	97	97				
「共生」 人と対話し、知恵と 思いを共有する	他の人と対話をして、考えや思いを共有することができますか。	91	92	B	・他者との考えや思いの共有の回答が高いが、様々な場面を捉えて、集団としての呼びかけと個別の対応を使い分けながら、対話を大切にした人間関係を一層築くことができるように支援していきたい。 ・課外活動を始め、高大連携や異校種連携等の活動を幅広く推進することができた。今後は校内周知をイメージしやすいものにした。 ・担任や学年部を中心に生徒との対話を大切にしてきたが、一層機会を捉えた会話を意識していきたい。 ・共同作業に関する項目の数値が低いが、授業でのグループワークなどの共同作業で自己肯定感を感じられるように支援したい。 ・寮では、寮長を中心により良い生活が送れるように工夫した。今後も、定期的に寮内の3役会を開き、情報交換などを行い、寮生の自治による運営を目指す。	C	・全体的に高い数字が出ているが共生と対話の部分が気になる。自立に関して、与えられたものはできるが、その後周りと振り返るところを強化していくとよい。全体との振り返りの機会を与え、客観的に自己を評価していくことにより、数字が上がるのではないかと ・保護者評価と生徒と評価の差が開いているものはなぜか。仮説として、生徒と保護者との対話が足りていない可能性がある。生徒は中央高校の良さを知っているが保護者には伝わっていないのではないかと ・学校に対して、生徒は甘い評価、保護者は厳しい評価をする傾向がある。学校での様子が保護者へ伝わり切っていない可能性がある。また、生徒と保護者の物差しの違いがあるように感じる。また、生徒も教員も自分がしてきたことを客観的に価値づける力が弱い。教員自身も学校、島根県、地域の魅力を分かっているのではないかと。リフレクションを繰り返していき、価値を全体で共有すると良い。生徒も学校の魅力や地域の魅力を分かっているため価値を共有する、リフレクションの機会を持つことが必要。
	生徒との対話を大切にすることができていると思われませんか。	84	85				
	あなたは、共同作業だと自分の力が発揮できますか。		77				
	寮生活を通して、人と対話し、協力して生活できるようになりましたか。	98	97				
「挑戦」 最良の未来 に向け、困難に立ち向かう	難しいことにも立ち向かうことができますか。	80	92	B	・今年度の部活動入部率は94.4%、あそらボでの校外活動には1日平均14.8人が利用した。今後もこのような活動を推進していく。 ・生徒会が中心となって学園祭などの学校行事を企画・運営した。今後も、生徒の意見が反映される、生徒が意欲的に取り組む活動を推進したい。	B	
	あなたは、うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組んでいますか。		85				
上記以外で 評価を求めたい項目	本校は、健康的で安心・安全な学校生活を送ることができる環境整備、支援体制を整えていると思われませんか。	80	85	B	・心身の不調のある生徒について、担任・寮務担当・保健部・スクールカウンセラー・部活動顧問・特別支援コーディネーター・保護者と情報共有や協議をに対応した。また、外部専門家による支援を行うことができた。 ・授業評価アンケートを年2回実施したり、授業改善に務めているが、授業互見を実施するなどして、学力や技能の向上に結びつく授業を、全教職員で目指したい。 ・個に対応したイベントを実施したり、新たなコースの準備や模試のアナウンスをすることができた。学年部による差が出ないようにし、進路希望調査をもとにした的確な情報提供を心がけたい。	B	・教員は対話を学んだことがあるか。生徒が考える対話と大人が考える対話は一緒なのか。お互いに対話をどうとらえているか対話をする必要がある
	本校の授業は、学力や技能の向上に結びついていると思われませんか。	79	88				
	本校は、進路選択において必要な情報提供や教職員の指導相談体制ができていると思われませんか。	75	91				
	本校に進学して成長できていると思われませんか。	98	95				